

中前国際経済研究所 代表 中前忠著「米貿易赤字の縮小続く」〈十字路口〉日本経済新聞 2023年1月24日夕刊を読む

1. (1) 米国経済の不況化は着実に進行している。
(2) 輸入の減少を反映して貿易赤字の縮小が加速している。
(3) 貿易相手国で中国を例にとると、輸出が落ち、景気の下押し圧力が大きくなっている。
(4) 米国の外では貿易収支が悪化し、ドル不足が問題となってくる。
(5) 米国のマネーサプライの落ち込みと相まって、世界的な金融の引き締めりと経済の不況化を一段と押し進めるだろう。
2. (1) 米国の貿易サービス収支の赤字(国際収支ベース)は、新型コロナウイルスが発生した 2020年2月には405億ドルだった。
(2) 22年3月には1069億ドルと2.6倍となったが、直近の22年11月には615億ドルと42%減少している。
(3) 最大の対米黒字国である中国の場合、同じ期間に(通関ベース)米国の赤字は211億ドルから434億ドルに倍増した後、204億ドルと半減している。
3. (1) この期間は、ロックダウンによる経済の落ち込みを緩和しようと、米国が巨額の財政出動によって財消費を盛り上げ、折からの巣籠もり需要と相まって、テック企業のブームを引き起こした。
(2) この恩恵を最も受けたのが中国だったが、これが弾けたのである。
(3) マネーサプライ(M2)でも、21年2月に前年比26.9%まで伸びたが直近ではゼロである。
(4) 耐久財消費者物価も22年2月には18.7%まで上昇したが、22年12月ではマイナス0.1%まで下がっている。
4. (1) 最近の為替市場では米国景気の減速に反応して金利低下・ドル売りとなっているが、これは短期的な資本移動を映したものでしかない。
(2) より基本的な流れは貿易収支の方向とドル不足によって決まる。
5. (1) 本当に深刻となるのは、米国が金融政策を転換しても経済が上向く力がないことを見たときの市場の反応である。
(2) 金利差に基づくドル売りは一過性だといってよいだろう。

<コメント>

中前先生による分析の一行一行は、国際経済の動きを正確に反映したもので示唆に富む。御参考にしてください。

2023年1月25日(水)林明夫